

うたごよみ

曾於文藝



俳句

末吉俳句会

東の明るみ行くや揚雲雀

池田 安起徒

枯木立水音だけを聴いてゐる

北村 ヒロ子

純白の今解かれゆく花辛夷

原口 サエ子

大隅俳句会

亡き夫の愛唱歌聴く春の宵

福村 よう子

永き日の影と二人で歩き行く

逆瀬川 節子

異国語を交はす湯の中花の中

岩重 みどり

空濡れて日にきらきらと花辛夷

大川 満

短歌

末吉短歌会

癌告知の吾の祈願に弟の

水浴びるとふ凍てつく朝を

大森 澄子

大隅短歌会

早朝のガラスの窓は雪景色

八十路なれども心がはずむ

伊勢 タミ子

キャベツ三本の数より多くひよどりに

食いつぶされし冬庭の畑

安藤 フチ子

白梅のかほりに誘われ外に佇つ

川面のひかりはねるよ跳ねる

川辺 玉枝

財部短歌会

ことごとく葉を落したる街路樹の

梢を揺さぶり駈くる木枯らし

杉村 リカ

年賀状さりげなく添ゆる一筆は

老ひを忘れて米寿を迎ふと

井上 澄子

整然と並ぶ墓石色あせた

造花寂しく遺族待つ日日

山下 さとし

山越えの熊野古道に踏み入れば

遺産は語る先人の偉業

児玉 次雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

鯉幟や風 爺様あ焼酎が

踊らせつ 田代 勝泉

被災地い 懸命元氣な

鯉幟 鈴木 一泉

狭み庭ん 太か鯉幟が

いばつちよつ 桐野 奈世

五月晴れ すいすい泳つ

大て幟 浜田 一好

美人じや無が 人柄が良で

花が咲つ 新屋 涼子

優勝ち 国産の横綱ね

花が咲つ 津留 群志

春が来つ 女も美事て

花盛い 黒木 義士

朝歸い ばるいばれんな

犬頼ん 小倉 りんりん